

「会員の入会・継続の状況に関する調査」 報告

運営サポーターアンケート運営部会

1. 方法

調査対象：338 名（2 月 14 日時点のサポーター登録者数 269 名、代議員 69 名）

調査方法：Google フォーム

調査期間：2022 年 1 月 31 日～2 月 14 日 18:00

有効回答：120 件（有効回答率 35.5%）

2. 主な結果

(1) 回答者の年齢と介護従事者

回答者の年齢は、40 歳代が最も多く 57 名（47.5%）、次いで 50 歳代が 41 名（34.2%）だった。回答者のうち、現在、介護に従事している者は 72 名（60.0%）だった。

表 1 年齢と介護従事者

	従事している	(%)	従事していない	(%)	計	(%)
20～29 歳	2	(2.8)	0	(0.0)	2	(1.7)
30～39 歳	3	(4.2)	7	(14.6)	10	(8.3)
40～49 歳	40	(55.6)	17	(35.4)	57	(47.5)
50～59 歳	23	(31.9)	18	(37.5)	41	(34.2)
60～69 歳	4	(5.6)	5	(10.4)	9	(7.5)
70 歳以上	0	(0.0)	1	(2.1)	1	(0.8)
計	72	(100.0)	48	(100.0)	120	(100.0)
(行%)	(60.0)		(40.0)		(100.0)	

(2) 介護業務の実務経験

回答者の介護業務の実務経験については、「20 年以上」49 名（40.8%）が最も多く、次いで「10～15 年未満」25 名（20.8%）だった。

表 2 介護業務の実務経験

	件数	(%)
1～ 3 年未満	2	(1.7)
3～ 5 年未満	3	(2.5)
5～10 年未満	21	(17.5)
10～15 年未満	25	(20.8)
15～20 年未満	19	(15.8)
20 年以上	49	(40.8)
介護の実務経験はない	1	(0.8)
計	120	(100.0)

(3) 国家資格取得ルート

回答者の国家試験取得ルートについては、「実技試験を受けて、介護福祉士試験合格」が最も多く、62 名（51.7%）だった。

(4) 勤務先の種類

回答者の勤務先を「高齢者分野」「障害者分野」「医療分野」「教育分野」「その他」に分類した。
「高齢者分野」が最も多く、83 名（69.2%）だった。

表 3 勤務先の種類

	件数	(%)
高齢者分野	83	(69.2)
障害者分野	9	(7.5)
医療分野	6	(5.0)
教育分野	10	(8.3)
その他	12	(10.0)
計	120	(100.0)

(5) 勤務先法人の規模

回答者の勤務先法人の職員数については、「200 名以上」30 名（25.0%）が最も多く、次いで「100～200 名未満」23 名（19.2%）、「50～100 名未満」22 名（18.3%）だった。

表 4 勤務先法人の規模

	件数	(%)
10 名未満	13	(10.8)
10～ 20 名未満	11	(9.2)
20～ 50 名未満	18	(15.0)
50～100 名未満	22	(18.3)
100～200 名未満	23	(19.2)
200 名以上	30	(25.0)
その他	3	(2.5)
計	120	(100.0)

(6) 介護福祉士会入会までの期間

回答者が、国家資格を取得後、介護福祉士会に入会するまでの期間は、「1 年未満（資格取得と同じタイミングで入会した）」36 件（30.0%）が最も多く、次いで「10 年以上」28 件（23.3%）だった。

表 5 国家資格取得から介護福祉士入会までの期間

	件数	(%)
1 年未満（資格取得と同じタイミングで入会した）	36	(30.0)
1～ 3 年未満	16	(13.3)
3～ 5 年未満	17	(14.2)
5～10 年未満	23	(19.2)
10 年以上	28	(23.3)
計	120	(100.0)

(7) 入会から現在までの継続加入年数

回答者の、国家資格の取得から入会までの期間（行）と、入会から現在までの継続加入年数（列）についてクロス集計を行った。継続加入年数ごとに見ると、「5 年未満」、「5～10 年未満」、「10～15 年未満」については、入会までの期間は「5～10 年未満」および「10 年未満」が占める割合が高い傾向がみられたが、「20 年以上」については「1 年未満」14 件（56.0%）の割合が高かった。

表 6 入会までの期間（行）と継続加入年数（列）

	5 年未満	5～10 年	10～15 年	15～20 年	20 年以上	計
1 年未満	2 (7.4)	10 (34.5)	5 (17.9)	5 (45.5)	14 (56.0)	36 (30.0)
1～ 3 年	5 (18.5)	1 (3.4)	5 (17.9)	1 (9.1)	4 (16.0)	16 (13.3)
3～ 5 年	5 (18.5)	5 (17.2)	4 (14.3)	0 (0.0)	3 (12.0)	17 (14.2)
5～10 年	7 (25.9)	6 (20.7)	8 (28.6)	0 (0.0)	2 (8.0)	23 (19.2)
10 年以上	8 (29.6)	7 (24.1)	6 (21.4)	5 (45.5)	2 (8.0)	28 (23.3)
計	27 (100.0)	29 (100.0)	28 (100.0)	11 (100.0)	25 (100.0)	120 (100.0)

(8) 介護福祉士会に入会したきっかけや理由

介護福祉士会に入会したきっかけについて、複数回答で質問した結果、「研修やイベントに参加した際に興味をもった」38 件（31.7%）、「会員の活動を知って介護福祉士としての使命感をもった」35 件（29.2%）が多かった。

介護福祉士会に入会したきっかけや理由



「その他」として、以下の記載がみられた。

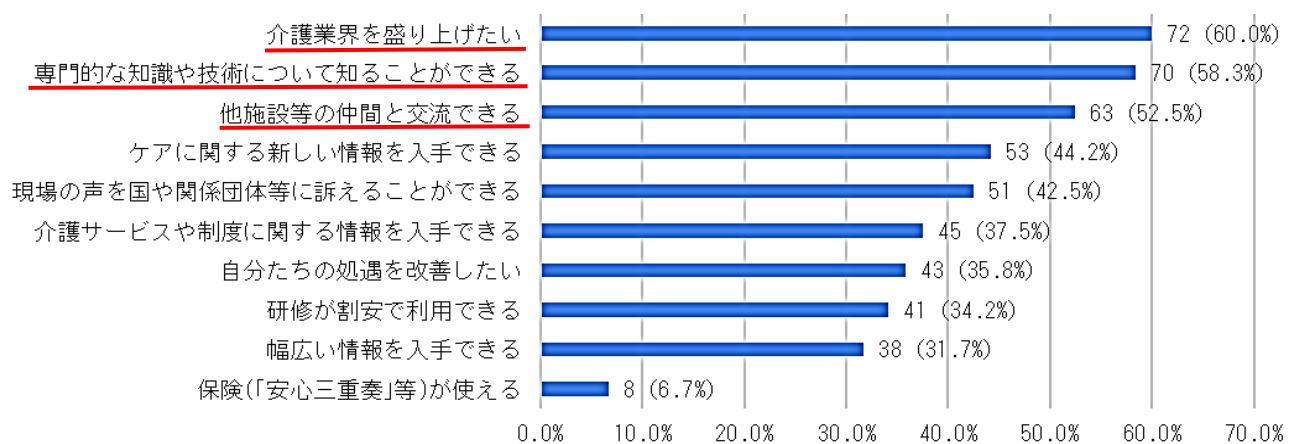
- ・ ホームヘルパー養成の時、講師に介護福祉士の資格を取ったら介護福祉士会というものがあるので、入会をした方が良くと勧められた。色々な研修に参加し、介護福祉士会の研修に興味を持ったから。
- ・ もともと有志で勉強会を行っていましたが当会発足時点で会全体が合流しました。
- ・ 介護技術講習会の講師に介護福祉士会の方が参加しており、夜遅くまで熱心に教えていた。その熱心さに帰り際に合格したら必ず入会すると約束し、合格、登録証が来たと同時に入会した。
- ・ 介護福祉士からの視点だけでなく、ひとりの市民、住民として社会システム全体を俯瞰した捉え方を構築したい。諸所の活動や課題に働きかけ協働し、時代に即した社会の実現を図りたい。

- ・ 私が望む福祉を伝え共有し開発したい。
- ・ 多職種研修会などで、他職種の職能団体の活動を見て、入会して活動しなければと気づいた
- ・ 講師として活動したかったから
- ・ 資格を取って終わりじゃなく、もっと色々なことを学びたかったから。
- ・ 自分がどうにかしてやと思った
- ・ 特にこれというものはないが、入った方がいいかなと思って

(9) 介護福祉士会の加入を継続する理由

介護福祉士会の加入を継続する理由について、複数回答で質問した結果、「介護業界を盛り上げたい」72 件（60.0%）、「専門的な知識や技術について知ることができる」70 件（58.3%）、「他施設等の仲間と交流できる」63 件（52.5%）が多かった。

介護福祉士会の加入を継続する理由



「その他」として、以下の記載がみられた。

- ・ 「専門職」の要件だと思う
- ・ 介護福祉士だから
- ・ 介護福祉士として働いている間は、入会し続ける
- ・ 介護福祉士の価値を確認したい
- ・ 介護福祉士という資格を育てるため
- ・ 未来に残さないといけないため
- ・ 機会があれば貢献したいと思っているから
- ・ 使命であり役割
- ・ 自身の研修を企画するため
- ・ 同じ職能の仲間との絆
- ・ 副収入が得られる
- ・ 継続している理由もあまりないが退会する理由も
- ・ 今期で退会する

(10) 勤務先での会員の有無と人数

勤務先（法人、施設等）の会員の有無について、会員が「いる」と回答したのは 70 名（58.3%）だった。そのうち、勤務先の会員の人数については、「1～3 名」35 名（50.0%）が最も多く、次いで「10 名以上」14 名（20.0%）だった。

表 7 勤務先での会員の人数

	件数	(%)
1～3 名	35	(50.0)
4～6 名	13	(18.6)
7～9 名	8	(11.4)
10 名以上	14	(20.0)
計	70	(100.0)

(11) 他施設等の会員との交流

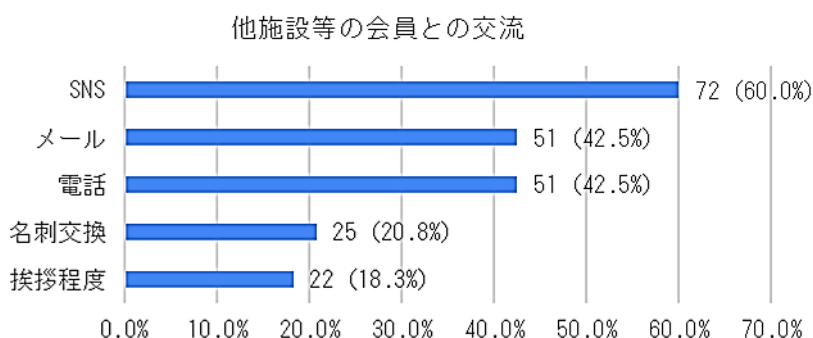
他施設等の会員との交流について、「必要に応じて連絡をとる」53 名（44.2%）が最も多く、次いで「よく連絡をとる」30 名（25.0%）だった。

表 8 他施設等の会員との交流

	件数	(%)
よく連絡をとる	30	(25.0)
必要に応じて連絡をとる	53	(44.2)
研修などの機会に限られる	24	(20.0)
まったく交流がない	13	(10.8)
計	120	(100.0)

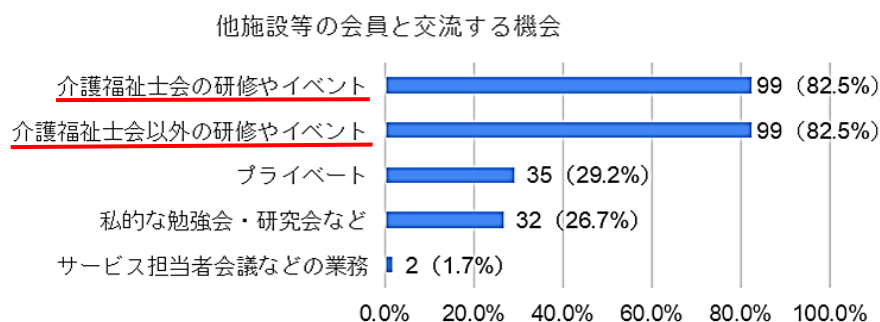
(12) 他施設等の会員との交流方法

他施設等の会員との交流をどのように行っているかについて、複数回答で質問した結果、「SNS」72 件（60.0%）が最も多く、次いで「メール」51 件（42.5%）、「電話」51 件（42.5%）だった。



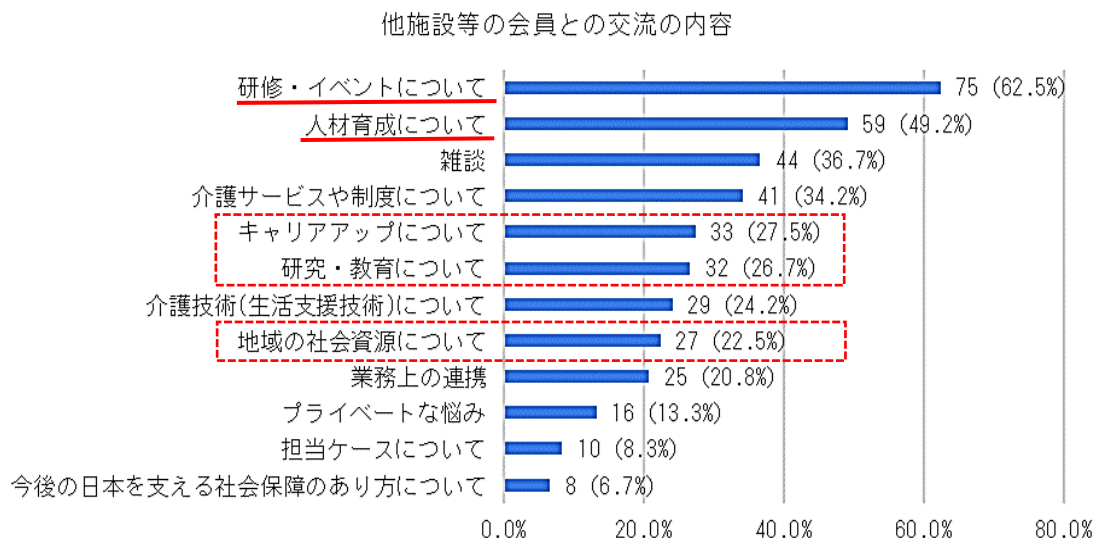
(13) 他施設等の会員と交流する機会

他施設等の会員との交流を、どのような機会に行っているかについて、複数回答で質問した結果、「介護福祉士会の研修やイベント」99 件（82.5%）、「介護福祉士会以外の研修」99 件（82.5%）が最も多かった。



(14) 他施設等の会員と交流する内容（現状）

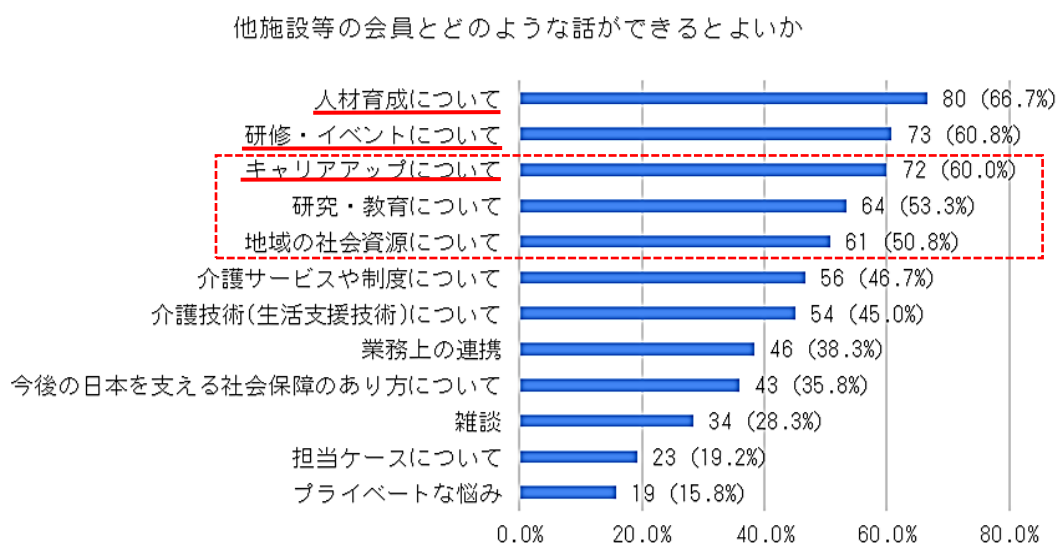
他施設等の会員との交流（会話、意見交換、相談等）で、どのような内容について話しているのかについて、複数回答で質問した結果、「研修・イベントについて」75 件（62.5%）が最も多く、次いで「人材育成について」59 件（49.2%）だった。



(15) 他施設等の会員とどのような話ができるとよいか（期待）

他施設等の会員とどのような話ができるとよいかについて、複数回答で質問した結果、「人材育成について」80 件（66.7%）が最も多く、次いで「研修・イベントについて」73 件（60.8%）、「キャリアアップについて」72 件（60.0%）だった。

回答者の半数以上が選択した項目について、他施設等の会員と交流する内容（現状）とそれぞれ比較すると、「キャリアアップについて」（32.5 ポイント）、「研究・教育について」（26.6 ポイント）、「地域の社会資源について」（28.3 ポイント）について、現状よりも期待の方が高かった。



(16) 業務上でプラスになったこと（自由記述）

会員との交流によって、業務上でプラスになったことについて、自由に意見等を求めた。得られた主な回答を内容ごとに分類した。

【会員個人が得たもの】

① 自己研鑽の機会と研修等の情報が得られる

- ・ 自己研鑽と新しい情報収集を吸収出来る
- ・ 自己研鑽になり知識や技術が増加した
- ・ 情報共有が出来た 他の研修などを知ることができた
- ・ 研修ニーズを知ることができた
- ・ 研修などの情報を知ることが出来る。
- ・ 情報収集と自己研鑽に繋がっている、介護福祉士養成校の教員をしていること
- ・ 研修に参加したり、講師として活動していくと自己研鑽になったり、他者とも学び合える環境が出来たこと

② 意欲向上につながる

- ・ やる気が出ます
- ・ 前向きになれる
- ・ モチベーションが上がる
- ・ 仕事への意欲が増加。モチベーションアップに繋がっている。自分の仕事に生きがいを感じることができている。
- ・ 日本介護福祉士会の研修に、参加して、主催者との交流が、功を奏して、運営サポーター登録者となった。資格者レッテル強化につながった。感謝です。

③ 視野が広がる

- ・ 所謂「試験組」で介護の基本を学ぶことなく資格取得したので、視野等が狭かったはず。研修を受講することにより、人に接することとは?等基本的な事を学ぶことが出来自分のベースになっている。
- ・ 会員に限らず、視野が広くなり、ストレス発散にもなる。会員が少ないので、会員外との接触が多い
- ・ 他法人の会員との意見交換や交流をしていくことで、所属する法人だけでなく、介護業界全体を俯瞰して考えられるようになった。
- ・ 見識や考え方の幅が広がった
- ・ 私の中では会員の人たちのほうが具体的な未来の構築（人生や社会のあり方）を考えていく人が多かった。主体は自分なんだという意識がはっきりしていた。自分で考えて行動していくし目標も自分で立てている人が多かったように感じました。かつ、期限なども決めて実行する人が多かったように思います。

④ 情報交換や情報収集ができる

- ・ 他の職種の業務内容や他法人の運営方針が知れた

- ・ 現場での人材育成の考え方や手法が共有できたこと。
- ・ 他施設での悩みや取り組み、専門職としての意識を確認できた。
- ・ 他施設での職員の待遇や人材育成等での工夫/介護保険等での加算に対する取り組み等
- ・ 他の施設、仕事の中身の情報などが知り得た。
- ・ 法改正やライフ導入についての情報交換ができる。
- ・ コロナ対策について他事業所での取り組みを知り情報交換ができる。
- ・ 自分だけの理解ではなくいろんな方の意見が聞けた

⑤ 横とのつながりができたり相談ができる

- ・ 問題に対して、アドバイスをもらえる
- ・ 相談員業務など自職場では相談できる相手がいらない(経験者がいらない)が、他会員の経験者に相談に乗ってもらうことで心の支えとなった。
- ・ 業務上の悩みの情報共有
- ・ 想いを共にする会員と話せることで、刺激をもらえ学びも多い
- ・ 狭い地域の中での意見。広く、九州、全国の仲間の意見。他、事業体で働く方の話を聴く事で自分の悩みに当てはめて考え見たり。抱えている問題の解決につながった。
- ・ 業務中は業務内容中心でなかなか細かいケアについてや働く人たちの気持ちなどは聞くことができない。研修時に困ったことや嫌だったこと、悲しかったこと、辛かったことなどなかなか職場では言えない感情を聞くことができると現場で働く同じスタッフの声がけや気遣いにも前向きにはたらきかけができて良かったと思います。
- ・ 悩み事や相談事ができ、新たな知識が習得できた
- ・ それぞれの職場で頑張っている様子を聞いたりすると、励みになる。
- ・ 仕事の悩み等の相談に乗ってもらったり、会以外の研修の情報を教えてもらった。
- ・ 研修協力、イベント協力など
- ・ 自職場の悩みを聴いてもらえた。
- ・ ケース検討ができた。
- ・ 自身の経験したことの無いケースの相談ができる。
- ・ 介護サービスの知識を習得出来、迷いや分からないことはその都度聞くことが出来、職場外の横の繋がりが築ける。
- ・ 他の施設の取り組み、仕事上の悩み等を話すことができる。
- ・ 良くない内容ではあるが、自施設の悩みや課題は、他施設でも同様に抱えており（人材不足、人材の質の偏り、向上心が薄い、受け身的な言動・発想など）、自施設だけではないということを実感する。
- ・ 同じサービスの情報ややり方の相談
- ・ 他の施設でのケア方法や勤務体制など業務の情報を得ることが出来ている。また、業務など悩みなどを相談することが出来ている。

⑥ 人脈づくりにつながる

- ・ 人脈づくりや多職種との関係性構築につながる
- ・ 会員を通じた多職種との関係性構築

- ・ ネットワークの充実
- ・ 人脈づくりにプラスとなった。
- ・ 人間関係が広がった。
- ・ 施設・在宅に関わらず、いろんなところに知り合いができ、いろいろな情報を共有できるところ。

【業務へ反映できたこと】

⑦ 他施設等の情報を得ることで自職場での活用や業務改善につながる

- ・ 新しい知見や文献を拝見し、業務上におけるケアに繋げることができた
- ・ 様々な事例を聞き、豊富な情報量を得ることで、現場で多角的な関わり方が実践できる。
- ・ 自分の考えや業務への姿勢を客観的にみることができた。
- ・ 支援方法や業務改革について学ぶことが出来た。支援技術が高くなることが出来た。
- ・ 新人教育、介護業務の見直し
- ・ 人材育成の考え方や制度政策の解釈などの理解を通して、自分の業務に繋げることができた
- ・ 技能訓練など外国人に対する偏見を持たず教育すること。
- ・ 研修に参加して業務に生かされたこと
- ・ 他事業所や、高齢に限らずいろんな場所で活躍している方の話が聞けるので、それを活かす事が出来る。
- ・ 他施設の業務上の対応を知り得て自施設の問題点など見直しを提起できた。
- ・ 情報交換によって自職場の状況を把握することが出来、職場環境の改善につながる。
- ・ 職場における人材育成、運営企画、支援の取組み
- ・ 所属している施設では行っていない事等の情報がわかり、職場に反映できる
- ・ 他法人の新型コロナウイルス感染症対策の情報を得ることができた
- ・ 他施設での取り組みや業務内容等参考になった。また、自身のスキル向上に繋がる話が出来た。
- ・ 一緒に研修を作る過程で勉強になることが多かった。研修の組み立て方、資料の作り方など。
- ・ 他施設での研修内容や取り組みを知り、自施設でもできないか検討できた。
- ・ 仕事の困りごとやアイデアなど年齢関係なく話ができ、ひらめきや具体的解決策などが得られ、自分の業務に即活用が出来る事
- ・ 他施設等で働く会員の悩みを聞かせていただくなかで、人材育成の必要性を強く感じ、自職場の人材育成やキャリアアップの強化につなげることができた。
- ・ 現況なら、コロナ禍での具体的対応やL I F E の取り組み状況です。
- ・ 他施設の情報にて、自施設において進行していない部分の提案、実現に繋げる事が出来た。
- ・ 他施設の仕事の仕方や福祉用具の導入状況、研修の持ち方など自社と比較して良いところは取り入れようと思えたこと。
- ・ 職場の姿勢ややり方を業務に取り入れることが出来た。
- ・ コミュニケーションを図ることで他の事業所の良いところを参考にする
- ・ 自職場以外の状況を知り、改善方法を幅広く検討する事ができた
- ・ 県や市の方々と話す機会が増え、いろいろと話しやすくなったところ。

- ・ 横のつながりが増え、サービス担当者会議等でも意見交換が活発に行え、家族から見ても安心できると話を受けたことがある。
- ・ 共に知っている会員がいると判明した後、信頼感が増し業務がスムーズになった。
- ・ 他事業所の情報を交換できた。研修のやる気につながった。地域にある他事業所と連携するとき相手の会員を信頼する事ができた

【その他】

⑧ 交流ができていない

- ・ コロナ禍で交流が出来ないので、何とも言えません。
- ・ 具体的な交流はないので分からない。

(17) あなた自身の生き方にプラスになったこと（自由記述）

会員との交流によって、あなた自身の生き方にプラスになったことについて、自由に意見等を求めた。得られた主な回答を内容ごとに分類した。

【生活や生き方において基盤となるもの】

① 仲間ができる

- ・ 組織力を上げないと所属するだけでは意見の反映にならない事がわかったので魅力発信をしていく仲間ができた。
- ・ 頑張っている仲間がいるだけでありがたいです。この仕事をしていて良かった。と思います
- ・ 介護を真剣に考え、今後も一緒に話して考えていける仲間が増えたところ。
- ・ 考えを共有できる存在を得られた
- ・ 共に悩んだり、挑戦したり、楽しむ事で、より毎日が楽しく、諦めそうになっても頑張ることが出来ている。同じ目標を持った仲間と出会えたことが、宝物です。
- ・ 仲間意識が強固になり、介護の仕事を継続するモチベーションが高まる等
- ・ 共通の仲間が居る事、共有できる仲間が居る事、共感できる仲間が居る事、全国に仲間が居る安堵感、自分の取り組みや方向性に齟齬が無いと確信し自信を持って活動している
- ・ 仲間意識が出来た！勉強になった
- ・ 輪が広がり、共に頑張れる仲間が出来た
- ・ 見聞が広まった。自職場以外の仲間との交流
- ・ 仲間作り。情報交換相手が増える。悩み事などの解消。
- ・ 仲間が出来て悩みなど共感したり解決したことがある
- ・ 同業者あるあるを共有し、勝手に一人ではないという仲間意識を持つことができています。

② 前向きになれる

- ・ 利用者の生活を真剣に考える話や実践を聞くと、自身も前向きに頑張ろうと思える。
- ・ チャレンジングにいろいろな事業に取り組んでいる方との交流で、自分も頑張ろうという気持ちになれる。
- ・ 介護・福祉に根差す仲間が増えた事（モチベーション向上）

- ・ 介護福祉士を盛り上げるために頑張っている人がいるという励み
- ・ 同じ職を持ち、同じ志の方たちと話す機会が多ければ多いほど、モチベーションも維持され、気持ちの共有や自身では気づかなかった知識の共有を双方に行い、安心感のある仕事が日々行える。
- ・ 本物にこだわった、常にモチベーションが高い方々との仕事は楽しいですし、知識・技術・価値とは何かを理屈抜きで感じ取ることができます。
- ・ 悩みや不安を打ち明けることが出来、メンタルケアに繋がっていること。色々な悩みを共有し、ポジティブになることが出来ます。
- ・ 前向きに考えることができるようになった部分もある。
- ・ 皆、同じ悩みを抱えていることを知ることで前向きになれた。
- ・ 専門職としての考え方やモチベーションを高めることができた
- ・ 専門学校で学んで来たことをアップデートすることが出来る。また、悩んでいるのが自分だけではないのだと知ることができ、気持ちが楽になった。
- ・ 雑談を交わす中で心がほぐれ、次の行動に自信が持てた

③ 支えてもらえる

- ・ 職場での重圧等により心が病みそうになった時、他施設の会員が支えてくれた
- ・ 会員との交流は、偶然のきっかけでつながったりするので、その時々情報を交換し、助け助けられている。

④ 視野が広がる

- ・ 視野が広がり、刺激を受けることで、自己研鑽に励める
- ・ 視野が広がっている
- ・ いろんな人の話を聞くことで、考え方の幅を広げる事が出来る。

⑤ 人脈が広がる

- ・ いろんな人との繋がりが出来た。人脈の拡大。
- ・ 幅広い年齢層の人繋がることができた(職場以外で)

⑥ 意見が聞ける

- ・ たくさんの方の意見が聞ける。
- ・ 前向きな意見が聞けた。

【介護福祉士としての資質の向上】

⑦ 人材育成への効果や刺激が得られる

- ・ 他会員に自身が行う研究などのインタビューを依頼させてもらったり、実習指導等で施設を巡回する際に知り合いの方がいることで実習生も安心して実習が行えたり、他都道府県の志の高い介護福祉士との交流により刺激を受けることが出来るなど、自分自身としては入会し続けることにおいてはメリットしかないと考えている。
- ・ 職場以外での研修や教育が介護現場を良くしている現状をしり、研修講師を行うようになった。

- ・ 講師という立場から教える側の姿勢や所作とともに、教える・学ぶ時間はすべて自分の成長にプラスとなった。2 年前に NPO 法人を設立し、介護保険事業の開設と地域の社会資源の創出に取り組んでいる。今年度から介護職員初任者研修事業者・事業指定を受け、人材育成にも取り組むことができた。

⑧ 介護の仕事の幅が広がる

- ・ 介護の世界でも現場だけでなく色々な仕事があると教えてもらった
- ・ 志の高い全国の介護福祉士と出会うことで視野が広くなり、介護福祉士の可能性を感じた。具体的には講師として活躍している会員、介護福祉の研究を行っている会員、成年後見人活動を行っている会員、自分の知らない分野の学びを深めている会員などと出会うことで、いろんな介護福祉士の形を知ることができた。

⑨ もっと磨こうと思える

- ・ 向上心をもっている人との関わりの中で自分もそうになっていったこと
- ・ 職場内、介護に対する悩みを相談や考え方を聞く事により、自分自身を振り返る事や仕事への取り組みへの考え方を学ぶ事が出来た。また、介護の仕事も続ける事が出来たと思う。向上心も目覚め、学び事もできた。
- ・ 自分には無い考え方や意見で、新たな考え方ができるようになる。他施設にも素晴らしい介護福祉士がいる事で、自分をもっと磨こうと思った。
- ・ 自身の力をもっと身につけることは、やるべきことなんだ、と思えるようになった。
- ・ 介護福祉の面白さが益々増え、現場でのサービス向上、人材育成などに興味を持つようになった。

⑩ キャリアアップ・キャリアパスへの好影響が得られる

- ・ キャリアアップに繋がった。
- ・ キャリアを意識するようになった
- ・ 転職
- ・ 会の活動を通して講師の経験を積む機会が増え、自分のキャリアパスに選択肢が増えた。
- ・ 研修を担当されている講師のかたや先輩方から刺激をもらい、さらなるキャリアアップを考えられるようになった。

【専門職としての意識の確立】

⑪ 専門職としてのプライドを持てる

- ・ 専門職としての考え方やその振る舞い、何より自分達は介護の専門家としてのプライドです。
- ・ 介護福祉士としてのプライドを持つことで業務以外での人との交流を大切にするようになったと感じる。
- ・ 所属施設の考え方だけではなく、介護の現状や視点が異なる部分等を理解でき、介護業界全体を広く見つめることが出来てよかった。介護福祉士の将来や、自分が専門職としてプライドを持って働くことが出来、自分自身が何を求めているのかを整理できた。

⑫ 介護への向き合い方や考え方を深化できる

- ・ 職員に対しての処遇や職場を盛り立てていく姿勢など、寛容に一人ひとりに寄り添うことの大切さを意識するようになった
- ・ 介護福祉士の質の向上と教育の重要性を感じる
- ・ 自立して生活するためにいま何が自分にとって大事なのかを考えるきっかけになる
- ・ 未来を具体的に考えられるようになった。言い訳をしなくなった。自分の持つ力を未来に繋げていく考え方ができるようになった。
- ・ 学ぶことを学ばせてもらっています。

⑬ 介護業界全体のことを考えるようになる

- ・ 介護福祉士の社会的地位向上を図るために、微力ながら今後も努めていきたい
- ・ 自分の周りのことだけではなく、業界全体のことを考えるようになった
- ・ 「介護福祉士は介護福祉士が育てる」このことを会員と継続交流することで認識でき、生涯に渡っての使命感と感ずることができた。
- ・ 自分にどのようなことが出来るか分からないが、人材育成や教育について考えたり、勉強でできることが分かったこと。
- ・ 前向きに活動されている人たちから刺激をもらった。介護職のレベルアップに尽力したい

⑭ 就労継続につながっている

- ・ 介護の仕事継続の励み、継続に繋がっている。
- ・ 介護の仕事が天職のように感じられた
- ・ 「介護福祉士」という社会的機能を意識することで、視野の広がりや連帯感を持てた。離職の予防に資すると思う。
- ・ 同じ専門職の仲間がいるという安心感を得た上に、数えきれないほど多くの学びと出会いがあり心豊かに仕事に励んでいます。
- ・ 研修のやる気につながった。やらなくても良い役割を引き受けてしまい疲れる時もあるが、そのぶん力がついたり、他人と交流することで介護福祉士の仕事を続けていきたいと確かに思える。